



1 単元名 傷害の防止（応急手当の意義と基本）



本時案のみ

6 本時の展開（1時間目）

(1) 本時の目標

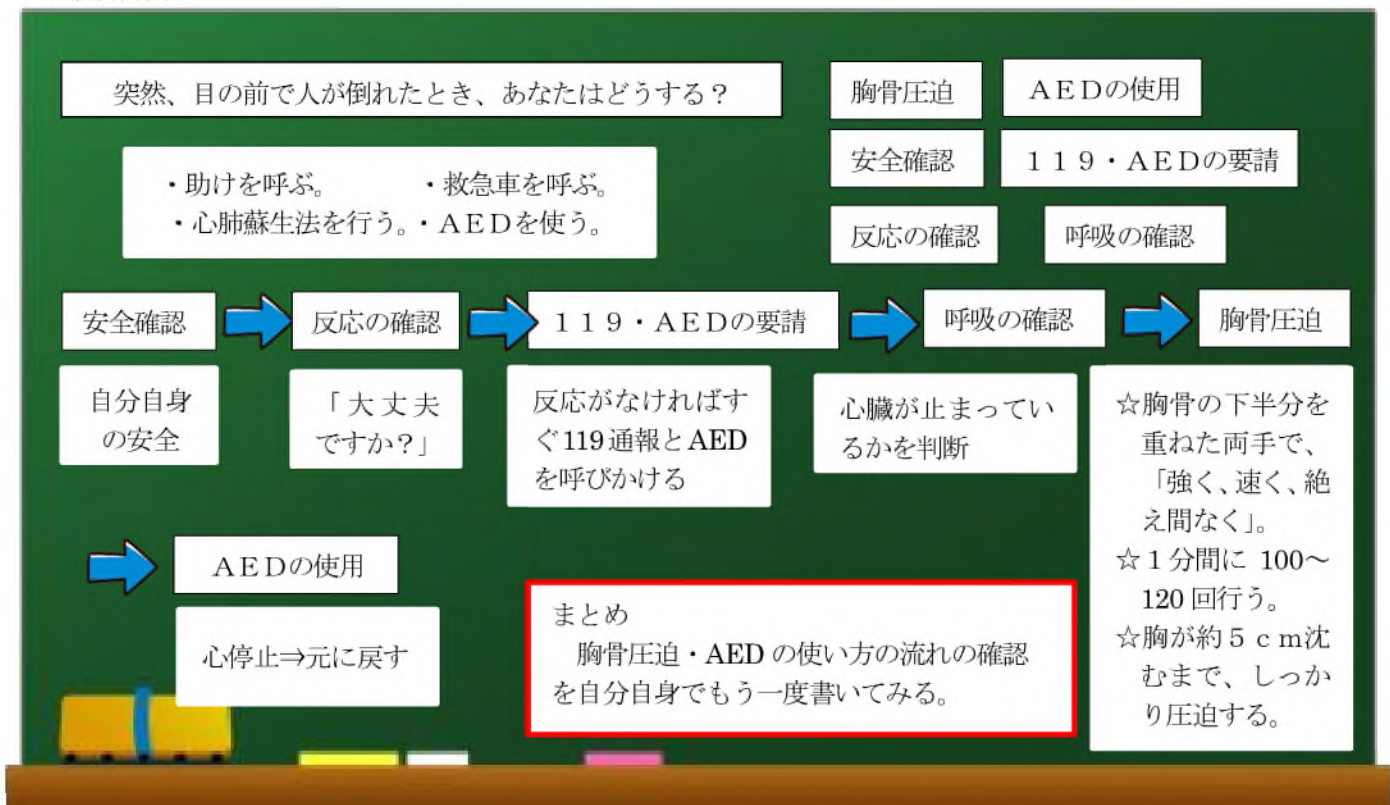
- ◎ 応急手当（心肺蘇生法）の手順、胸骨圧迫及びAEDの使用方法について、理解することができるようにする。 （知識及び技能）
- 応急手当（心肺蘇生法）について命の重要性を感じ、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 （主体的に学習に取り組む態度）

(2) 展開（1/2）

時間	学習内容・学習活動	○教師の指導・支援 ◆は評価基準と方法						
導入 5分	<p>1 倒れている人を発見した時どうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助けを呼ぶ。 ・ 救急車を呼ぶ。 ・ 心肺蘇生を行う。 ・ AED を使う。 	<p>○ 導入から人の命を救うためには何をすればよいのかをじっくり考えさせ、生徒の意見を板書する。</p>						
	<p>突然、目の前で人が倒れたとき、あなたはどうする？</p>							
展開 42分	<p>2 カードを見ながら、自分ならどう行動するかを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>安全確認</td> <td>119・AEDの要請</td> </tr> <tr> <td>反応の確認</td> <td>呼吸の確認</td> </tr> <tr> <td>胸骨圧迫</td> <td>AEDの使用</td> </tr> </table> </div> <p>3 反応の確認 ※ パネルを黒板に貼る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;"> 反応の確認 </div>  ※ 「大丈夫ですか？」と呼びながら肩を叩く。</p> <p>4 119・AEDの要請 ※ 説明が終わったら、パネルを黒板に貼る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;"> 119・AEDの要請 </div> </p> <p>5 「心停止」を両手を使って表現させる。 ※ 心停止の様子を両手で表現する。 </p> <p>6 AEDの使用 ※ 説明は終わったら、パネルを黒板に貼る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px;"> AEDで電気ショック </div> </p>	安全確認	119・AEDの要請	反応の確認	呼吸の確認	胸骨圧迫	AEDの使用	<p>○ 目の前で人が倒れているので、何をすべきかを考えさせ、「反応の確認」及び「だいじょうぶですか？」と呼びかけることを想起させるような声掛けをする。</p> <p>○ 生徒に班で考えさせた後、なぜそのように考えたかを発表させる。 ①安全確認 ②反応の確認 ③119・AEDの要請 ④呼吸の確認 ⑤胸骨圧迫 ⑥AEDの使用</p> <p>○ 人形を活用して、反応の確認の仕方を教師が見せる。</p> <p>○ 反応がない状態ががすでに119の連絡をすることとAEDを持ってくる状況であることを確認させる。 「反応がないってことはとてもまずいこと。とにかく救急車を呼んだり仲間を集めたりしたほうがいいよね。」</p> <p>○ 倒れている人の心臓がどのような状態になっているかを考えさせる。</p> <p>○ 痙攣している心臓も「心停止」と理解させる。 「ブルブルと痙攣している心臓も心停止です。正常に戻すには、AEDの電気ショックが必要なんだよ。」</p> <p>○ 心室細動（心臓の痙攣）を止め、心臓を元の正常な状態に戻すにはAEDによる電気ショックが必要であることを確認させる。</p> <p>○ AEDが到着するまで何をするかを考えさせ、胸骨圧迫を想起させる。</p>
安全確認	119・AEDの要請							
反応の確認	呼吸の確認							
胸骨圧迫	AEDの使用							

	<p>7 胸骨圧迫</p> <p>※ 説明が終わったら、パネルを黒板に貼る。</p> <p style="text-align: center;">胸骨圧迫</p> <p>※ 胸骨の下半分を重ねた両手で、「強く、速く、絶え間なく」。</p> <p>※ 1分間に100～120回行う。</p> <p>※ 胸が約5cm沈むまで、しっかり圧迫する。</p> <p>8 呼吸の確認</p> <p>※ 説明が終わったら、パネルを黒板に貼る。</p> <p style="text-align: center;">呼吸の確認</p> <p>※ 死戦期呼吸の映像を見せる。</p> <p>9 安全確認</p> <p>※ 説明が終わったら、パネルを黒板に貼る。</p> <p style="text-align: center;">安全確認</p> <p>10 ASUKAモデル映像を視聴する。</p> <p>※ 大切な命が心肺蘇生法の普及で助かることを確認する。</p>	<p>「倒れてからAEDが到着するまで時間がかかるね。AEDが到着するまでどうする？」</p> <p>○ 胸骨圧迫は、やり方の説明のみにし、具体的なやり方は次回の実習で確認することを伝える。</p> <p>○ 胸骨圧迫をすることで、脳と心臓を守り、心臓がブルブルしている時間を延ばす役割もある。</p> <p>○ 胸骨圧迫を始める際に確認すべきことは何かを生徒に考えさせる。</p> <p>「胸骨圧迫を始めるには心臓が止まっていることを確認しないとできないよね。」</p> <p>○ 倒れている人の少し高い位置から、胸・お腹を観察し（5～10秒）、普段通りの呼吸かどうか確認する。</p> <p>○ 死戦期呼吸の映像を見せ、この呼吸の場合はすぐ胸骨圧迫を開始することを伝える。</p> <p>○ 自分自身の安全を守ることが最優先であることを説明する。</p> <p>「でも、一番大切なことがあるんだ。自分自身の身を守ること、危険な場所では近づかない、すなわち安全確認が大切なんだ。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 心肺蘇生法の流れをワークシート等 に書き出している。（知識及び技能） 【観察・ワークシート】</p> </div>
<p>まとめ 3分</p>	<p>11 本時のまとめ・次時の予告をする。</p> <p>※ 本時の感想を書く。</p> <p>※ 心肺蘇生法の重要性</p> <p>※ 次回は実習を通して学ぶこと（技能）</p>	<p>○ 本時の感想を書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 心肺蘇生法の授業の感想を感想用紙に具体的に書き出している。 （主体的に学習に取り組む態度） 【感想用紙】</p> </div>

(3) 資料
※板書計画









6 本時の展開（2時間目）

(1) 本時の目標

- ◎ 心肺蘇生法について、理解したことを言ったり、書いたりしているとともに、訓練キットで実践することができる。 (知識及び技能)
- ◎ 心肺蘇生法の知識を生かし、課題の解決を目指して、胸骨圧迫及びAEDの使用を適切に判断して実習をしている。 (思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開 (2/2)

時間	学習内容・学習活動	○教師の指導・支援 ◆は評価規準と方法
導入 5分	<p>1 前回の「人が目の前で倒れた時」の心肺蘇生法の流れを復習する。</p> <p>2 本時の課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 胸骨圧迫・AEDの使い方をマスターしよう。 </div>	<p>○ カードを用意し、生徒と確認しながら、流れを黒板に貼っていく。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> 安全確認 → 反応の確認 → 119・AEDの要請 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> 呼吸の確認 → 胸骨圧迫 → AEDの使用 </div>
展開 40分	<p>3 胸骨圧迫とAEDの使い方 胸骨圧迫とAEDの使い方の説明をする</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>反応の確認</p> <p>① 傷病者に近づき、耳元で「大丈夫ですか!」、「もしもし!」と呼びかけ、片方の手で傷病者の肩を軽くたたき反応を見る。</p> <p>② 何らかの反応（目を開ける・顔をしかめる・声を出す等）があれば訴えを聞き、それに対する手当てを行う。</p> <p>③ ある程度の意識はあるが、訴え等を言えないような場合は「回復体位」にする。反応が悪く意識の障害があると判断すれば、迷わず119番通報し救急車を呼ぶ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>119・AEDの要請</p> <p>① 意識がなければ大きな声で、「だれか来て!」と叫び助けを呼ぶ。</p> <p>② 協力者が来たら、特定の人に「あなた119番お願いします」と救急車の要請を依頼する。</p> <p>③ 同じく「あなたAEDお願いします」とAED（自動体外式除細動器）があれば取って来てもらう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>呼吸の確認</p> <p>① 傷病者の胸とお腹の動きを見る。（5～10秒以内で!）</p> <p>② 呼吸を見ても普段どおりの呼吸をしていなければ、胸骨圧迫を行う。</p> <p>③ 呼吸を確認したが、呼吸をしているかどうか分からないときは、呼吸なしと判断して直ちに胸骨圧迫を行う。</p> </div>	<p>○ 胸骨圧迫とAEDの使い方について説明し、理解させた上で実習を行わせる。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">     </div>

展 開 4 0 分	<p>胸骨圧迫</p> <p>① 普段どおりの呼吸をしていない場合は心臓の拍動も停止していると判断し、胸骨圧迫を開始する。まず圧迫部位を探します。</p> <p>② 胸骨の下半分が圧迫部位になる。</p> <p>胸骨圧迫の手法</p> <p>① 両手を重ね、指を組んで胸のほぼ中央に片方の手の付け根を置きます。</p> <p>② 肘を伸ばした状態で、垂直に体重をかけ胸を圧迫します。</p> <p>③ 傷病者の胸が少なくとも5cm沈み込む程、強く（圧迫と圧迫解除は同じリズムで）1分間に100～120回のリズムで圧迫を行います。</p> <p>※ 胸骨圧迫を行う場合は、平らな固い床の上で行う。（ベッド・布団の上などは効果が半減します。）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 心肺蘇生法について、理解したことを言ったり、書いたりしていると、訓練キットで実践することができる。（技能）</p> <p>◆ 【観察・ワークシート】</p> </div>  	
	4 人工呼吸の仕方を知る。	<p>※ 傷病者の肺に酸素を含んだ空気を送り、換気を補助するのが人工呼吸の目的である。新しいガイドラインでは、人工呼吸がためられる場合は「省略してもよい」とされているが、実践方法については一通り知っておく。</p>
まとめ5分	5 本時のまとめ	<p>※ ワークシートなどに感想を記入する。必要に応じて発表の機会を設ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 心肺蘇生法の知識を生かし、胸骨圧迫及びAEDの使用を適切に判断して実習をしている。（思考・判断・表現）【観察・ワークシート】</p> </div>

※ 訓練キット「あっぱくん」を使用した2時間目の実習内容となります。

胸骨圧迫の手順及びAEDの使い方の資料を熟読し、実態に合わせてながら実習を行って欲しいと思います。